

伝説コース

(関田地区)

STAMP

course memo

- ② 距離：5.5km
- 👣 歩数：8400歩
- 🕒 時間：80分
- 🔥 消費カロリー：300kcal
(ミルフィーユ1個分)

け 溪流清き どうどう淵

名久田川が滝となって流れ落ちる音が、かつては
どうどうと響いたというところから名付けられ
た。この淵には龍宮
伝説(椀貸伝説)があり、
甌穴(ポットホール)も
見ることが出来る。



【どうどう淵の伝説】

関田の与五右衛門がどうどう淵に咲く藤の花を
採りに行ったが、淵に鉈を落としてしまい、拾
おうと潜っていくと、着物を着た女たちが酒や
料理を振る舞ってくれた。宴を楽しんだのち鉈
を持って家に帰ってくると自分の葬式が営まれ
ており、驚く皆に話を聞かせた。与五右衛門は
その後も一生懸命働き、だんだん年をとって
寝込むようになった。するとどうどう淵で
飲んだ酒が飲みたいという。ひょうた
んをどうどう淵に浮かべてみよと言
うので浮かべると沈んでいき、酒
がいっぱい入って返ってきた。
与五右衛門は大変喜び、嬉
しそうに飲んで眠るよう
に死んでいった。



こ 里人こぞりて 初午祭り

二月初午の日に豊饒・商売繁盛を
祈る祭り。山車が出て、雪が降ると
とても幻想的な祭りになる。



第1回高山村の「未来に残したい写真」コンテスト入賞作品

て 天慶の 森の伝説 石の宮

あわび姫と小野俊明の悲しい恋の伝説が伝わる
パワースポット。恋の願いを叶えたい人は
添うが森へ、離縁したい人は添わずが森へ！

【添うが森、添わずが森の伝説】

天慶3年、平将門征伐の際、小野俊明はあわび姫と恋に落ち、軍から遅れてしまった。しかし女に迷ってはいけなと出家し、熱退と名乗り尻高泉照寺住職となった。姫はその後一子小太郎とともに和尚を訪ねたが会えず、名久田川に身を沈めてしまった。村の者が哀れんで塚を作り、これに恋の願いをかけること叶うことから「添うが森」と呼ぶようになった。その後熱退が亡くなり、川を挟んで添うが森の反対に塚を立て、離縁の願いをかける塚として「添わずが森」と呼ぶようになった。



添うが森



添わずが森

四季を通じて美しい川の景色や自然、
村に伝わる伝説を楽しみながら歩けるコース。
添うが森で恋の願いが叶うかも!?

